

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①育てたい生徒像を職員間で共有し、「主体的・対話的で深い学び」を組織的に実現する授業づくりを推進する。</p> <p>②ICTを利活用し、問題発見・課題解決能力や情報活用能力の育成に努める。</p>	<p>①スクール・ポリシーに基づく本校の育てたい生徒像を念頭においた「主体的・対話的で深い学び」への組織的な取組をさらに進める。</p> <p>②1人1台端末の導入にあたり、ICT機器（iPad）を積極的に活用した授業づくりに向け組織的に取り組む。</p>	<p>①組織的に授業づくりを推進するため、授業改善のための教員研修の実施及び内容の更なる充実を図る。</p> <p>②全てのグループで1人1台端末業務に携わることで、職員のICT機器（iPad）を積極的に活用する意識を高める。</p>	<p>①スクール・ポリシーを踏まえ、すべての教員が「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを行ったか。</p> <p>②1学年で、ICT機器（iPad）を活用した科目が、7割以上あるか。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、多くの教員が探究型の授業展開を意識し行うことができた。</p> <p>②1学年では、7割以上の科目でICT機器（iPad）を活用した授業を行い、生徒の資質・能力が一層に育成することができた。</p>	<p>①残念ながら一部の教員は旧態依然とした授業を行っている様子が見受けられた。今後は教科全体で共通理解を図りながら授業改善に取り組んでいく。</p> <p>②活用する科目を更に増やすため、活用事例や研修等を実施して、組織全体のスキルレベルを向上させ、活用率を8割以上に引き上げる。</p>	<p>①主体的な学びの実践と教科担当教員間の授業実施内容の共有は大切である。</p> <p>①探究型の授業展開を意識して行うことが出来たことは評価できる。</p> <p>②ICT機器の活用は、公民問わず必修であり、営業業務、物流、あらゆる分野で活用され、またソフト開発の需要も増大している。早い段階からICT機器に精通されることが望ましい。</p> <p>②管理者のマネジメントによる取組への強化を期待したい。</p>	<p>①主体的な学びによる学習効果を、今後何を用いて評価するかが課題である。</p> <p>①「主体的・対話的で深い学び」のさらなる推進に向け、職員間で具体的な指導方法等を共有し、職員全体の授業スキルアップを図る必要がある。</p> <p>①探究的な学びの推進に向け、生徒一人ひとりがテーマに基づき研究成果をクラスで発表する等、学校全体で取り組むことができた。</p> <p>②多くの教員がICT（iPad）を活用した授業を行うことができたが、職員間で、依然活用意識やスキルの差がある。</p>	<p>①主体的な学びの実践をどのように評価に結び付けるか（指導と評価の一体化）についてさらに研究を進める。</p> <p>①「主体的・対話的で深い学び」の組織的な実践に向け、具体的な指導方法等を教科間等で共有できるシステムを構築する。</p> <p>①探究的な学習の指導内容についてさらに研究を進め、充実化を図る。</p> <p>②授業におけるICT機器（iPad）の活用率を8割以上に引き上げるため、活用事例の提示や校内研修等を通じ、職員間の意識共有とスキルの向上を図りながら組織全体で取り組んでいく。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①生徒が主体となって活動することにより、共感力や自己肯定感を育成する。</p> <p>②社会の出来事に関心を持ち、責任ある態度とリーダーシップを育む。</p>	<p>①生徒が中心となって運営する行事や部活動の実現をめざす等、生徒主体の活動を促進し、他者理解力やリーダーシップをさらに育成する。</p> <p>②交通マナー向上に向けた取組や日頃の生徒指導等を通じ、規範意識の醸成を図る。</p>	<p>①生徒が学校行事や部活動を主体的に計画し、他者への尊重や協調を重視するとともに、制約や時間が限られる中でも創造的に活動し、充実した学校生活が送れるように支援する。</p> <p>②自転車マナーを啓発し、事故件数を減らす。校則と社会規範について考え、自ら遵守する姿勢を育成する。</p>	<p>①学校行事、部活動において、生徒が主体的に活動できたか。他者を尊重し協調することができたか。</p> <p>②登下校時の自転車による事故件数が昨年より減少したか。また、マナー、ルールが守られ地域からの指摘が減少したか。</p>	<p>①学校行事や部活動への制約やそれらを取り巻く状況が変化中、学校行事は、生徒が主体的に且つ職員と協力して、新たな取組や工夫ができた。部活動の取組もコロナ以前に近い形に戻っている。</p> <p>②相模原市委託事業の交通安全講習会と地域と連携した交通安全講習会では具体的な危険個所での注意点を把握した。</p>	<p>①体育祭や文化祭などの学校行事の在り方や部活動の運営方法を、コロナ以前に戻すだけでなく、時代に対応した新たなシステムに積極的に変更する等、より良い活動となるよう改善していく。</p> <p>②交通安全講習会や指導を継続的に実施していく。また今年から自転車のヘルメット着用が努力義務となったため、生徒に周知していく。</p>	<p>①麻溝台高校の伝統となっている生徒主体の行事運営は大いに評価できる。今後も生徒による行事運営をさらに進め、生徒の豊かな人間性や社会性を育ててほしい。</p> <p>①今後、生徒自身が年度ごとに行事運営に対する評価を行い、次年度の運営に生かせるよう記録を保存してほしい。</p> <p>①行事等をコロナ以前の状態に戻すのではなく、時代に対応した新たな形式による実施に期待したい。</p>	<p>①学校行事や部活動の運営方法等について、コロナ禍で得た経験を生かし、在り方や運営等について、時代や学校の実情等に対応した持続可能なものとなるよう生徒と協議を重ねながら改善を図っていく必要がある。</p> <p>①行事の運営は、概ね生徒主体で行うことができた。今後、生徒のみで運営できるよう支援する必要がある。</p> <p>②90%以上の生徒が自転車通勤していることから交通安全マナーの向上は必須である。今後、交通安全指導の運営方法等について検討し、改善を図っていく必要がある。</p>	<p>①体育祭や文化祭など今年度実施した学校行事について、課題の洗い出しによる検証を行い、今後、どのように工夫したら無理や無駄がなく運営できるか等、生徒主体で検討を進めていく。</p> <p>①部活動については、生徒主体による運営にさらに取り寄せ、達成感を味わわせながら豊かな人間性、社会性、リーダーシップ等を育てていく。</p> <p>②今年から導入された自転車のヘルメット努力義務等を含め、交通安全講習会の継続的な実施や、朝の登校時間帯における自転車マナー向上運動の充実化を図っていく。</p>
3 進路指導・支援	<p>①自らの将来に関心を持ち、深く探究する力を育てる。</p> <p>②進路実現を組織的に支援する進路指導体制を整備する。</p>	<p>①職業観、勤労観の育成に向けたキャリア教育をさらに充実させる。</p> <p>②一人ひとりが希望する進路実現に向け、個のニーズに応じた進路指導を組織的に行う。</p>	<p>①ガイダンスで職業及び学部等への理解を深め、自己実現に向けた探究活動を実践させる。</p> <p>②進路実現のために各生徒の課題を分析し、進路及び探究の活動を通じた改善に取り組む。</p>	<p>①ガイダンスで職業及び学部等への理解を深め、自己実現に向けた探究活動を実践できたか。</p> <p>②進路実現のために各生徒の課題を分析し、進路及び探究の活動を通じた改善に取り組めたか。</p>	<p>①ガイダンスで職業及び学部等への理解を深めさせ、自己実現に向けた探究活動を実践できた。</p> <p>②進路実現のために各生徒の課題を分析し、進路及び探究活動の改善に取り組んだ。希望者を募り、英検を学校で実施したところ、263名受験した。</p>	<p>①今後社会で求められる職業や働き方について理解を深められるよう講話等を実施していく。</p> <p>②学力を模試の結果を分析・共有し、学校全体で組織的に改善する。</p> <p>②学力を模試の結果を分析・共有し、学校全体で組織的に改善する。次年度は英検の学校実施をさらに組織的に行い、大学受験に活用していく。</p>	<p>①進学先の学部・学科等の学びと社会や産業・職業との関わりを視点に置いていることは評価できる。</p> <p>①進路指導の成果が進学実績によく反映されている。</p> <p>②海外探究、渡航経験は、社会人となった際に大きき変化をもたらす。是非渡航のチャンスを作ってほしい。</p> <p>②DX時代にふさわしい指導に期待したい。</p>	<p>①様々な職業について、職種への理解だけでなく、労働条件、働き方、勤務時間、給与等の条件や、社会人・職業人としてのマナー等についての理解を深めさせる必要がある。</p> <p>①進路実績はここ数年向上している。</p> <p>②大学進学を目指す生徒の中には、安易に指定校推薦を選択することにより、進学先の学部・学科と将来望む職業につながりがないケースが生じている。</p>	<p>①多方面で活躍する卒業生の力を活用した分野別進路説明会や、進路講演会等を積極的に実施する等、生徒の職業観・勤労観をさらに育成していく。</p> <p>②指定校推薦を活用した受験への指導や学力模試の結果分析を活用した組織的な進路指導体制の構築等をさらに充実させる。</p> <p>②次年度は英検の学校実施をさらに拡充させる。</p> <p>②キャリア教育の一環としての海外研修旅行の実施を検討し、令和6年度からの実施をめざす。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4 地域等との協働	<p>①学校を取り巻くコミュニティを活かし、地域の教育力を生かした学びの場づくりを推進する。</p> <p>②学校運営協議会制度を有効に活用し、地域と協働した学校運営に努める。</p>	<p>①コロナ禍においても実現可能な近隣大学との連携や地域交流を模索し、生徒の学びの場の拡充をさらに図っていく。</p> <p>②学校運営協議会のメンバーの意見や要望を積極的に活用する等、保護者や地域の声に耳を傾けながら柔軟な学校運営に取り組み、地域教育力の向上に貢献していく。</p>	<p>①地域や近隣大学との連携として、オンラインを活用した講座や研究発表に参加し、さらに活動の場を広げる。</p> <p>②学校運営協議会の開催についてICTの活用等を検討し、協議会がより有効に機能するような方策を研究する。PTAや生徒会等と連携し、中庭に「憩いの場」(仮称)をつくり、地域や保護者との交流を深める。</p>	<p>①大学との連携事業や講座・研究発表に生徒が積極的に参加し、昨年度以上に活動の場を広げることができたか。</p> <p>②学校運営協議会を新たな形態で実施できたか。PTAや生徒会と協力して「憩いの場」を完成させ、今まで以上に交流を深めることができたか。</p>	<p>①コロナ禍のため、開講されない講座等もあったが、新たな講座開設等もあり、大学聴講講座の受講人数は、昨年度の約2倍になった。</p> <p>②中庭に生徒とPTAが連携してベンチを作製、生徒及び来校者が憩う環境を整備した。また、ベンチ等の作製においては地域の企業とも協働することで、生徒とPTA、地域の交流を実現できた。</p>	<p>①withコロナを踏まえた更なる連携強化を図るため、地域連携・高大連携の新しい形を検討していく。</p> <p>②ベンチ作成と同様に、50周年事業の一環として整備した中庭の「憩いの場」の整備をさらに進め、生徒の充実した生活環境を構築するとともに、PTAや地域との交流の場としても活用していく。</p>	<p>①コロナ禍の影響による停滞は良く理解出来る。次年度以降の取組に期待したい。</p> <p>①ここ数年、高大一体としての連携が取れているのではないかと評価できる。今後も、より緊密に連携し、大学の在り方を考えるチャンスを沢山作ってほしい。</p> <p>①地域、人等様々な面での“繋がり”の大切さを意識した取組に期待したい。</p>	<p>①「地域コミュニティー」への参画は、ここ数年コロナの影響もありやや希薄になっている。その中で、地元の木材業者と連携し、生徒に対し地場産業に対する理解教育を深めるための林業体験を行うことができたことは大きな成果である。今後も地域の様々な分野との連携を通じ、生徒の学習の場の拡充を図るとともに、学校として、地域の教育力向上に向け、地域貢献を果たしていく必要がある。</p> <p>②次年度50周年を迎えるにあたり、生徒の「憩いの場」として、中庭の整備を着々と進め、土地改良、地元の木材を使用したベンチ作成・WiFi環境の整備等を行うことができた。</p>	<p>①地球社会とのさらなる連携強化を図るため、今後、withコロナを踏まえた新たな形式による地域連携・高大連携を模索していく。</p> <p>②50周年事業の一環として整備を進めている中庭の「憩いの場」について、今後、一部芝生化、花壇の作成、ベンチの増設等を行いながらさらに整備を進め、生徒だけでなく保護者や地域、卒業生等との交流の場としての積極的な活用を通じ、人と人との「繋がり」をさらに構築していく。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①教員が生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。</p> <p>②緊急災害時の対応や事故不祥事の防止にむけて、職員の「当事者意識」を高める。</p>	<p>①業務の無理や無駄の洗い出しや会議のスリム化をさらに進め、積極的な働き方改革を図っていく。</p> <p>②不祥事防止会議が中心となり、不祥事防止に向けた取組を組織的に行い、事故不祥事防止に向けた意識啓発をさらに図っていく。</p> <p>③防災訓練の実施方法を工夫しながら、生徒の防災意識をさらに高めていく。</p>	<p>①年間の企画会議・職員会議の日程を早めに提示し、グループ・学年の会議の回数を減らしていく。</p> <p>②不祥事防止会議を組織的に行うことで、職員一人ひとりに当事者意識を持たせる。</p> <p>③コロナ禍における発災を想定した訓練等を行うことにより、防災訓練のマナー化を防ぎ、防災に対する意識を高める。</p>	<p>①会議が減少効率化され、教員が生徒と向き合う時間が確保できたか。</p> <p>②職員一人ひとりが当事者意識を持ち、事故・不祥事を未然に防ぐことができたか。</p> <p>③コロナ禍における防災を意識して訓練等を実施し、防災体制と生徒並びに職員の防災意識を構築することができたか。</p>	<p>①年間の企画会議・職員会議の日程は早めに提示され、業務に見通しを持って取り組むことが増えた。</p> <p>②職員全員が当事者意識を持ちながら研修に参加する等、組織的に取り組んだ結果、事故・不祥事の防止につながった。</p> <p>③防災訓練において、グラウンドに集合するまでの順路を生徒一人ひとりが把握できた。</p>	<p>①会議の予定は早く伝わったが、会議そのものの時間が勤務時間を超えてしまう場合がしばしばあった。今後は時間内に行えるよう改善を図っていく。</p> <p>②不祥事防止は恒常的に継続する案件であり、今後も職員全員で取り組み、事故・不祥事「ゼロ」を継続する。</p> <p>③2・3学年と新入生との防災知識の差をなくすため、早い時期に防災訓練を実施して、防災教育を徹底し、意識の啓発を図っていく。</p>	<p>①研修の効果が現れて、組織的な対応が整っている。</p> <p>①業務改善を行っていく上で、会議のあり方については、「どんな会議も勤務時間内で終了する」と決めて取り組まないと業務改善は実現できない。そのため、勤務時間内での会議設定に加え、勤務時間外に会議は設定しないというスタンスを持ってほしい。</p> <p>②不祥事防止に対する意識の向上を、互いに問いかけてほしい。</p> <p>③災害時や事故などの対応は、日々の訓練に寄るところが大きいと思う。</p>	<p>①業務の効率化と削減に向け、コロナ禍におけるリモート活用の促進、オフィスのコンパクト化、諸会議の規模縮小、業務ソフトの一元化、長期休業中における不要な打ち合わせの削減等々、コロナ以前と比較しても業務の効率化や時間短縮を図ることができたことは、働き方改革につながったと評価できる。</p> <p>①会議の設定については、職員に事前に示し計画的に行うことができたものの、会議が長時間になり、勤務時間を超えてしまう場面がしばしばあったことは今後の課題である。</p> <p>②年間を通じ、大きな事故やトラブルは発生しなかったものの、成績処理作業において若干課題が残った。</p> <p>②業務全体についてゼロベースでの見直しを図り、さらに教員の負担軽減につなげていく必要がある。</p> <p>③避難訓練を実施するにあたり、生徒はもちろん教職員も、「訓練」という意識からの脱却が必要である。</p>	<p>①働き方改革については、先ず校長はじめ管理職が絶えず模索していく必要がある。この1年間の種々の業務の検証を通じ、学年業務、グループ業務等に無理や無駄がないかを洗い出し、積極的な業務改善を図っていく。</p> <p>①会議を勤務時間内で終えるために、資料はA4表裏1枚にし、例えば「会議時間は最長でも1時間」と時間設定することによって効率化を図っていく。</p> <p>②業務を遂行するにあたり、ミスにつながる原因として、職員間のコミュニケーション不足やシステムの理解不足などが上げられる。今後、誰が見てもわかるようなマニュアルの作成、複数での業務管理、管理職による点検体制の強化等を通じ、不祥事防止に対する職員全体の意識の向上をさらに図りながらミスのない組織づくりを行っていく。</p> <p>③防災訓練の実施時期については、新年度が始まりできるだけ早い時期に実施する。</p> <p>③生徒に対し、3.11から得た教訓を風化させることなく防災教育を徹底し、防災意識の啓発を図っていく。</p>